★『定期健康診断など、今年度の主要な保健行事の計画・調整・実施等について、・・・』
その他、あなたの学校の新型コロナウイルス感染防止対策において、課題や困難なことがありましたらお書きください。

島で50人規模の学校です。熱中症の危険もあるため登下校や外でのマスクの着用はムリにさせていません。しかし、部屋に戻ってそのままマスクをつけ忘れてしまう子どもがいます。毎日の取り組みとしては、5月～毎日の体温測定カードの提出や(測り忘れている子どもは教室にある体温計で測る・毎日全員提出必須)放課後の職員による消毒をしています。6月下旬(島では感染者ゼロ)になると、いつまで続くんだろうと職員の声も聞こえてきたため、提案している側からすると、新しい生活様式…と思うものの担任の負担を増やしたため、先が見えないことに対して申し訳ない気持ちも出てきてしまいました。。。
また、感染された方の人権被害の噂もあり、児童やその家族が最初にかかってしまった時のことがとても心配です。

○給食時に前を向いて食べることやおしゃべり禁止、配布物は教員が一人一人配る、よく触る場所のこまめな消毒、1時間おきの換気など、少しでも効果がありそうなことに取り組んでいるが、多くの子どもが集まる教室で実際どこまで感染予防に効果があるのが疑問がある。
○中だるみで、教職員や子ども、保護者に感染予防につての緊張感を持ち続けてもらうことが困難だと感じる。
○子ども達の疲れがピークに達しており、保健室来室が増えている(ケガも体調不良も)。他の教職員へヘルプを出したいが、教職員も疲れているため出しにくい。子ども、教職員のどちらもメンタルヘルスに課題がある。

・1クラスの生徒数が多く、密集密接は防げない。
・水道が少ない
・消毒液やハンドソープ、非接触型体温計など必要物品が品薄で手に入らない
・生徒下校後の校内消毒は負担が大きく、退勤時刻も遅くなっている

・アルコール消毒液の不足（次亜塩素酸系で行っているが、取り扱いが大変。）
・どこまで徹底するべきか（「やるべき感染対策」と「現実的に行える範囲」の擦り合わせが難しい）

・空き教室がなく早退者の隔離ができない。・机や椅子などの消毒、ソーシャルディスタンス、マスクの着用方法について管理職と共通理解が持てず、根拠や方策を示し理解を得なくてはならないのが負担。年次が低く臨時職員のため、専門性が重んじられていないと感じる。重要事項について管理職からの周知徹底ができず、職員が混乱しているシワ寄せが来る。大変苦しい。

・健康診断でどこまで配慮すればいいのか
・各行事における対策

・児童の密を作らないようにしたいが、学校生活の中では限界がある。
・マスク着用と熱中症との兼ね合いが難しい。

・消毒関係の物資の購入が、大量購入しなければならないが、思うように購入できないことがあった。
・支援学校での3蜜はかなり厳しく、職員からもいろいろなことを聞かれるが、「可能な範囲で」と答えるしかないこと。
・3蜜3蜜といわれるため、特に、過剰に消毒にこだわる職員への対応が初めのころは大変だった。

・放課後の校内消毒を学校職員で協力して行っているが、負担感が大きい。
・アルコール消毒液が足りていない。

・毎日の消毒作業が負担なため、消毒が大雑把になっている職員もいる。
・職員の意識の差がある。
・情報が錯綜していて、敏感になっている保護者や職員がいる。
　学校でできることとできないことの取捨選択が必要である。

1クラスの人数が、多く密にならないようにするのは、難しい。

①液体石鹸を購入することができない。市で決まったものしか購入できないため。そこは、融通を利かせて欲しい。

②色々な対策については、学校によって様々であり、統一した対応が必要である。過剰すぎる消毒など、ある程度の知識があれば、する必要がないこともわかると思うし、ただやればいいわけではないと思う。

①家庭によって、感染リスクの危機感が異なるため、風邪症状の児童の対応が難しい。②先生方の消毒のマンネリ化が生じてきて、始めのころより雑になって来ている

①教職員、生徒、共感染予防、拡大防止の意識の低さ。特に部活時は今までと変わらない活動をしている部が多い。②アルコールやアルコールボトル、マスクなど衛生材料の不足。③新型なので仕方ないのですが、県の決定が遅く、現場での準備が間に合わない。④ハード面の整備が出来ない。例えば、水道は水しか出ないので、冬場の手洗いは期待できない。エアコンのない部屋でのマスク を付けての授業は負担が大きい。元々空き教室が無いので、分散して行う事が出来ない。

①校内で、子どもが主体的に新しい生活様式を守り過ごすための指導。
②出席停止基準
③健康観察の手法

1手洗い場、水栓数不足
2保健室の密状態をどう解消するか。ケガ、体調不良、保健室登校、メンタル面からの居場所と様々な理由で来室者がたてこんでしまうが、どれも切り捨てるわけにもいかず、十分に関わることもできずで、困っている。
発熱者への対応は別室でとなっているが、対応しきれない。

①授業で話し合いや異学年交流、群れ遊びや合唱など、子どもの成長によい影響をもたらす活動が出来ない。②教職員だけで毎日行うの校内消毒が大変だった。③在宅学習中や分散登校中、経済的に困窮していたり家庭状況が複雑な児童の心身の健康も気がかりだった。
①放課後は毎日、トイレと階段手摺りの消毒に40分位かかります。毎日一万歩以上歩きます、とても疲れます。②音楽、吹奏楽など実技を伴う教育を行う際の対応について質問されるが明確な答えは難しい。学校医にお聞きしても明確なお答えは難しい。こまごまとした具体的な方策のアドバイスを求められるが明確にお答えできず、申し訳ないなと思ってしまう。
３密が避けられない
3密が避けられない　消毒が徹底できない
3密は、指導しても徹底できない。
３密をとることが、難しい。
3密を避けることや熱中症予防と感染予防を両立させることが難しい。
3密回避を訴え続けているが、生徒間では徐々に気分が緩み曖昧になってしまう。また、ウイルスは目に見えないため、指導がしにくい。
3蜜を回避しながらの学校生活は生徒にとっても教員にとっても精神的な負担が多く、例年より体調を崩す生徒も多くみられる。
600人を超える規模の学校で、徹底した感染防止を行うには限界がある。できる範囲で感染防止対策を実施しているが、果たしてそれでいいのか…と感じている。
アルコールが入手困難、「３密」を避けることがきわめて困難
アルコールなどの薬品がたりない。
アルコールの購入、毎日の消毒(手すりやドア、トイレなど)、トイレ掃除、密接の防止
アルコールの購入が厳しい状況なので子供達の手指消毒を２学期以降大丈夫か心配しております
アルコールや液体せっけん、ラテックス手袋が入手困難である。
アルコールや液体石鹸が手に入りづらいこと、教員が生徒用のトイレ全てを毎日清掃していたこと、生徒の数に対して水道の数が足りていないこと、体調不良の生徒を保健室に留めておくべきかどうかの判断
アルコールや体温計が手に入らない
アルコールや非接触型体温計が足りない。
アルコール手指消毒液が不足している。
アルコール手指消毒剤が、なかなか入荷しないため、学級への配置ができない
アルコール消毒がなかなかおわらない
アルコール消毒液が入手困難で代替品として、次亜塩素酸水を使おうとしたが、消毒効果の情報が日々変わり、戸惑った。学校再開後は、コロナの影響で児童や保護者のフォローが大変な中、日常の業務に加え、全教職員が消毒作業が追加され、児童だけでなく、教職員の心身の健康状態も限界な人が少なくない。
アルコール消毒液や石けん液、手袋、マスクなどの工面が難しい。調達の見通しがもてない。気をつけているが子どもはどうしても密になる。
アルコール等の物資が手に入らない、また手に入ったとしても少量で塩素消毒に頼らざるを得ない。
いくら対策をしても結局密は避けられない
いつまでどの程度感染予防対策をすれば良いのか見通しが立たず困る
いつまで継続するのかへの精神的なストレス、どこまで感染対策をしていく必要なのか判断が難しい、保健資材をどの程度、備蓄しておけばいいのか。
いつまで消毒をしたら良いのか、また保護者の不安にどこまで応えたらいいのか悩んでいる
いつまで続くかわからないので、職員の負担感が大きい
いつまで続くか分からない状態なので、教員のモチベーション維持が難しい。消毒などが負担になっている。
いまだに経験したことがないことに対する判断をする場面の増加。
いわゆる「コロナ慣れ」してきている面もあり、教室内の消毒等が疎かになりつつある。管理職から再度職員に向けて引き続き協力を呼びかけてもらった。
ウォータークーラーを禁止にしているが、いつ再開できるか正解がないので困る。
お金が足りない、物品が届かない

かぜ症状のある児童への対応や欠席連絡を受けた際に出停にするかどうかの判断が難しい。朝の検温等やマスクの持参が難しい家庭への対応。
クラスの人数が40人を超え、蜜。 マスクは、ほぼしているけれど、この暑さで、不調を訴える子もいる。 マスクが、不衛生な子どもも見られる。担任により、感染対策の温度差がある。
ゴミ捨て等、掃除中に児童が行っていたが、感染防止のため担任が消毒作業とごみ処理をしていて、時間もかかり負担になっている。また、業務用泡ハンドソープの不足が続いていて、補充ができない期間があった。マスクを持ってこない児童への対応。
ゴム手袋が品薄。
コロナへの予防策など温度差を感じる
コロナ対策で運動会や遠足をはじめとした行事が縮小、延期、もしくは中止になっている中、理解を得られない保護者もごく一部ですがおられます。子供の思い出を台無しにするのかと、学校や教育委員会に強固にご意見されることがありました。
コロナ対策に必要な備品を買う予算がついていないため、消耗品で処理しなければならないこと。
ストレスや休校中の肥満度があがった生徒がいる。また、怪我が多い。また、熱中症になる1年が多い。
ソーシャルディスタンスが保てない。教職員によって考え方に個人差がある。消毒作業の負担。
ｿｰｼｬﾙﾃﾞｨｽﾀﾝｽの確保、マスクの着用など難しい児童生徒がほとんどである。人数が多いため、他学部との接触を避けられない、通路が狭い。 学校内の掃除、消毒など教職員の負担がある、職員室などの密が避けられない。
ソーシャルディスタンスを徹底するのは無理であり、感染拡大したとして、その原因を、徹底できなかった教職員に向けられるのではないか、という不安、世の中の風潮がかなりのストレスになっている。
ソーシャルディスタンスを保つこと
そもそも、学校生活自体が密なので、いくら教室内を消毒しても無駄だと思う。
トイレそうじや消毒など職員で実施しているが、感染が多い地域になったらそれでも十分とは言えないと思う。感染防止は学校の言い訳に過ぎないと思う。
トイレ掃除を業者が週２日行っているが、それでも流しの掃除、教室の消毒などの業務が負担である。
どうしても、3密が避けられない
どうしても子供達が集まると密状態になってしまう。教室の座席を1m以上開けることは困難。アルコール消毒液の入手困難。共用部分の施設消毒や職員によるトイレ掃除の負担増。
どうしても密になってしまう。管理職に感染防止対策について密を避けるようお願いしているがしてもらえない。(全校集会や授業参観の実施)
どこまですればいいのかが不安
どこまでのレベルの感染防止対策をすればよいか分からない。感染者がでていない地域ということもあり、教諭の先生方と養護教諭との、感染防止対策に関しての意識の差が大きく、全校で連携して取り組むことの難しさを感じる。
どこまで求められていることを実施できるかという見極めが課題と感じる。
どこまで消毒をしたら良いのか。学校生活において、密な状態を徹底して避けることはできない。
どのような予防策をすれば感染を防ぐことができるのか。 感染した場合の誹謗中傷の対する恐れ。
なかなか全職員の取り組みとならないこと。（重ねて丁寧に説明と呼びかけをしても）
バス通学なので感染が心配
フッ化物洗口実施への不安、消毒の方法や範囲に対する不安、物品の不足、こどもたちを掃除に関わらせる不安、給食時の不安、健康観察の内容や方法の不安
ほぼ全ての行事が秋に延期になり、それに伴う調整、計画、運営を感染対策と同時に行なっていることで業務が膨大になっている。
マスク、手洗い、換気は出来るが休み時間など、3蜜は難しい
マスク、朝の検温等、保護者の協力が得にくい
マスクが苦手の児童生徒がいたり、ソーシャルディスクがとれない場合もある。職員自らの予防と環境整備に力を入れ、児童生徒に感染させないよう、職員は気が張っている
マスクの着用が、できない児童生徒が多数いる。校内での感染防止に対する温度差が大きい。等
マスクの着用や密を避ける等の指導を児童に行っているが、現状として、小学生がこれらを意識しながら学校生活を送ることは困難（特に休み時間）であり、感染予防の徹底が図れない。また、机やトイレ等の消毒作業も、日々の業務が多い中で、更なる負担となっている。

マスクの着用を指導したいが、付けたがらない児童がいると、なかなか徹底しにくい。 また、行事よりも感染予防が優先だろうと思っても、職員の意識にも差があるため同一歩調で進めにくい。新しい生活様式とは何か、職員の意識改革が必要だと感じている。
マスクをつけない児童、検温せず登校する児童がおり、保護者の意識啓発が難しい。
マスク着用が徹底しない。したくない児童や外す児童がいまだにいる。教室の換気で室温が高く、熱中症の心配がある。 密を避けるのは難しい。
マスク着用で表情が見えず、授業に支障あった。マスク着用で熱中症の危険が高まった。
マスク着用と熱中症対策のバランス
マスク着用についてどうとらえるか、備蓄をどの程度持つか、備蓄の保管場所の確保
マンパワー不足
やはり1番は消毒です。物資不足の不安、トイレ掃除消毒などかなり煩雑。これがいい!と言う物を十分に準備し、使用法などもわかりやすくしてほしかったです。また、学校現場に実際に出た時の消毒についても。
やはり子ども同士は近くに集まってしまいます
以前から次亜塩素酸水を感染対策の一環として手指消毒に使用していたが、文科省等が薬機法より手指消毒に推奨しないと示したため、これまでのように使用できなくなった（施設消毒には使用可）。かねてより様々な施設や保育園等で使用され、健康被害も出ていない次亜塩素酸水を学校現場でも活用できるようにガイドラインを整えて欲しい。
委員会から次亜塩素酸水0.04%をもらっているが、報道では0.08%効果の認められるとされている。0.04%をどう活用しけばよいか。 消毒もどこまで消毒すべきか。
意識の差がみられること
異動してすぐの慣れない場所で、教職員へ協力を仰ぐことが難しい。
異動して来たばかりで消毒のお願い、急遽変更したばかりの健康診断に気を取られ、図工と重なってしまったら、図工の指導教諭に前の養護教諭の方がよかったと大声で怒られた。みなカリカリしていて、他でも教員同士のケンカがあるようだ。不眠が続いている。
一クラスの人数が30名前後であり、授業を始め、室内で間隔をとることが難しい。
一クラスの人数が多く、ソーシャルディスタンスがなかなか取れない
一般教員との危機感の差。意識の差を大きく感じる。消毒作業も負担。専門業者に任せたい。コロコロ変わる市教委の方針に振り回されている。疲れた。
何が正解がわからない中でいろいろな対策に取り組まなければならない
何をどこまで、何を使ってどのようにすればよいのか、教委からの指示が出たり通知が来る前に自分たちで考えて、必要物品を揃えて職員に共通理解をはかり、実施していかなければならない。今は、予算も付けてもらえるようになったが、最初はお金も物もなく、管理職と一緒に知恵をしぼりだしていた。
何を基準に考えたらよいかきちんとした情報のルートがない。
夏休みが短くなり熱中症対策がいつも以上に重要となった。
家族がPCR検査を受け結果が分かる当日に出勤し講演会で保護者に話をしていた教員がいた。家族に体調不良者がいる場合には出勤を自粛するようになっていたのに共通理解が十分でなかった。
家族が濃厚接触者に特定されても、児童生徒は登校して良いと定められている等、どこの学校で、いつ感染が広がってもおかしくない状況に強い不安を感じる。
家族の動き（職業も含めて）を把握しきれない。
家庭に居場所がない、軽微な症状であっても、体調不良者に対し、早退以外の手段が選択がしづらいこと。 コロナ等の対応から自分自身余裕がなく、心苦しいです。
課題はパンデミックが起きた時、学校で何ができるのか、休校措置と職員による消毒実施以外決まっていないので。 業者による消毒の予算がついていない。困難なことは消毒用アルコールの購入が品薄でままならない事。
過剰な消毒（給食当番の白衣とフェイスシールドを毎日消毒）。体温記録表を市内養護教諭会で検討して校長会の承認を得て使用し始めたところ、市長の意向で体温記録アプリが導入され、アプリには生徒の呼吸器基礎疾患や平熱が記録されていない点やアプリ登録率が77%で紙媒体とアプリが混在して煩雑な点などがやらせない。
外出先や保護者の職業・体調不良の把握など、プライバシー保護と感染予防との兼ね合いが難しい。（上は把握して欲しがっているが、抵抗がありやりたくない）
外部からの講師を招いた講演等が全てできなくなったことによる授業への影響。
各家庭や教員間の共通理解

各学校に対応が任され、これでいいのか、迷う事がある。例えば、教育活動、部活をどの程度、やってよいのかなど。(感染者関係がいない場合に)
各学校現場の判断で資材調達や感染予防対策を行う必要があり、もっと現場が動きやすく分かりやすいような指示があれば助かった。
各個人の意識、感覚のずれ
各個人の危機感の違い
各校の養護教諭と情報交換はしているが、統一したものがないため不安はある。
各行事において、感染防止を考えるが、それで本当に良いのか悩みながらの執務である。
隔離する第2保健室を設置することができない。
学級の児童数が多いと、教室内でのソーシャルディスタンスがとれない。広い部屋はいくつもないので、教室を変えることも難しい。
学級の人数が少なくないと、三密回避は難しい。
学級担任によってマスクの着用率に差がある。ハンドソープの入手が困難で、困っている。
学校が都内都市部にあり、児童の通学にリスクがある。また、質の高い授業と感染対策の両立が難しい。
学校で3密を避けるのは無理がある
学校では、何をどうしても蜜は避けられず、授業の時間帯はかなり配慮されているが、部活動時の対策が難しい。運動時はマスクを外しているため、不安だが難しい。
学校で三密を避けるのが難しい
学校で体調不良を訴える生徒の対応や待機場所の確保。教員の数もギリギリで、発熱があって早退させるにしても、別室で待機させることが難しい。
学校で密を避けるのは不可能であること。
学校という環境自体が、密接・密集を避けられない。
学校という空間は限られていて三密を避けることが難しい。
学校としての方針がはっきりしない。
学校において、放課後１回のみの消毒が果たして効果があるのか。疑問に思う。 ソーシャルディスタンス用にテープを貼って、距離の見える化を図り、間隔を空けるようにしているが、大人が目を離すと引っ付き合ってい場面を多々目にする。都度、指導をしているが、基本が集団生活であるため困難である。
学校に登校再開した時点で、生徒の活動場面の密は避けられない。マスク着用については、熱中症の心配もある。暑くなってきたので、したがらない生徒、外したがる生徒も増えてきた。
学校の環境で、児童同士の接触はある程度避けられない。気持ちが緩み、感染予防対策の必要性を児童や教職員が感じられず、だんだん疎かになっている現状があり、意識を保つ難しさがある。
学校の資源で一般的な感染症対策をするのはとても難しい状況にあること、発達段階から感染症対策の撤退が難しいこと、部屋がなく発熱者の隔離ができないこと
学校の方針や対策などは何度も練って大方まとまてはいるが、他校と比べた時に本当にこれでいいのか不安になることがある。
学校は、集団生活をする場なので、子どもが密になるのを避ける、という事には、なかなか難しさがある
学校は、密になりやすく、陽性の児童がいたらクラスターになると思われること
学校はほぼ全てが共有な生活であり、三密、ソーシャルディスタンスをはかることには限界がある。また、生徒にも職員にも感染に対する意識の差があり同一行動が難しい。
学校は集団生活の場。感染防止策に限界を感じる。
学校区が広いため全校児童の約6割がスクールバスで通学しており、座席の間隔をあけられないこと、また仮にバス利用者から感染者が出た場合に濃厚接触者が多くなってしまわないか心配である。エタノールでの机等の消毒を行なっているが、消毒に協力しつつほぼ毎日の容器への詰め替えを養護教諭が行なっている。他にも、マスク配付のクラスごとへの仕分け、毎朝7:30～の玄関での検温など養護教諭への負担過多の実態があると感じる。（本校で最も歳下の教員が養護教諭であることも要因か。）
学校現場で、3密を避けることの難しさ
学校現場で、熱中症対策と合わせてコロナ対策を行うのは、大変難しい。部活動についてもコロナ対策を実践しながら行うのは限界がある。熱中症対策を優先すると、コロナ対策は万全とは決して言えない状況。
学校現場では、なかなか密を避けることが難しいです。今のところ、学校関係者に感染者は出ていないのですが、夏休みに入り、県外の人との接触が増え感染者が出る恐れがあります。いろいろな面で不安があります。
学校現場では密を避けることが実質困難

学校現場では密を避けることに限界があると感じています。先生方の負担もあり、どこまで対策をとればいいのか悩まされています。
学校行事（特に修学旅行）の実施の困難さ
学校再開後は、生徒も手洗いなど予防対策に熱心に取組んでいたが、徐々にコロナ疲れが見られる。 職員にも月に一度は、見直しをして感染予防の意識を高く持ってもらうようにしている。 どれだけ授業で予防対策が取れていたとしても、部活が始まればマスクを外し密着密集することもあり、対策の難しさを感じる。
学校施設の消毒を毎日行うのに、何時間もかかり、事務処理などをする時間がなかなか取れなかった。
学校生活において、そもそも40人学級のため、39人在籍していると密になる。生徒の活動がかなり制限されている。修学旅行等も取りやめになった。
学校生活において、完全に児童同士の接触を防ぐのは困難である
学校生活を送ること自体が蜜を避けられない。熱中症等心配される中、マスクを外す指導か難しい。
学校長の考え方次第で学校間に大きく差が出ている
学校内でのソーシャルディスタンスは難しい マスクでの熱中症の心配
学校内でマスクや手洗いの徹底を呼びかけても、生徒を休み時間や登下校の間、ずっと指導できるわけではなく、感染予防がどこまで徹底できているか矛盾や疑問を抱えている。
学校内で密にならないよう工夫し、呼びかけているが、慣れてくるとどうしても距離が近くなってしまう。休み時間中の生徒の行動までは把握できない。
学校内の消毒への時間確保や資材の調達、熱中症が心配される中でのマスク着用の保護者への理解を得ること、毎日の検温を継続させること
学校判断の部分が多く、対応に迷うことが多々ある
学校保健委員会で保護者や地域の方を呼んでの開催はできない。体育館においての児童集会ができないので、児童会児童の活躍の場もなくなる。日々の消毒作業も負担。
感染に対する意識が人によって大きく違う中で、学校としての対策を決定しなくてはいけないこと。また、決めた後も実施する職員の温度差があると、指導の徹底ができないこと。指示される対応が多く、また、変更されていくため、指導する職員が対応に疲れ切ってしまっている。管理職の声のかけ方次第で、大きく変わると思うが、上手な管理職ばかりではないので、難しい。
感染を疑う生徒がいた場合、保護者の迎えまでの間、保健室以外に待機させておく部屋がないため、他の利用生徒に感染の不安がある。
感染症への知識や感覚が教員や保護者によって違い、意識の差を生んでいる。
感染症対策と熱中症対策との両立。
感染症対策と熱中症対策同時にするのが困難
感染症対策のため、仕事が増え、負担が増加している
感染症対策マニュアル通りにできない。スタッフと環境に無理がある。
感染症予防と熱中症対策をどのようにして進めていくかが課題になっている
感染状況が地域によって異なるので、対策を段階的にゆるめたりしている。その内容が周辺の自治体で足並みがそろわないことが気になる。教育委員会からは通達がない。
感染対策に対する教員の温度差
感染対策をどこまでするか、正解がない中で教育活動と感染予防を両立させていくことが難しい。
感染対策等の考え方などで、管理職や教員と足並みが揃わないことがある。
感染防止に対する教員自身の意識の差があり、対応が徹底しにくい。児童自身が３密を防ぐことが難しく、集団生活を送る上での感染リスクが高い。
感染防止の習慣を教職員保護者児童が緊張感を持って取り組み続けるられるかが心配
感染防止の物品について「足りており、大きな支障はない」と答えたが、今のところは特別予算配当があり、アルコールも準備できたものの、これがいつまで続くのか先が見えず、先々では不足が生じ、支障が生じるのかもしれず、安心ができない。消毒についてもどの程度が適当であるのかわからない。いろいろな情報に右往左往している。教育委員会も学校長の判断でと言われると、ますますこちらの負担感は大きくなる。
感染防止を1番に考え学校運営が行われているが、思うような活動ができず、生徒や職員の精神的負担が心配される。
感染防止意識の保持
感染防止策が、養護教諭任せになっている。コロナに関する発信者がほぼ養護教諭である。
感染防止対策について不透明な部分が多く、常に迷いがあり、的確なことが打ち出せない。

感染防止対策に割く教員の時間の確保が難しい
感染防止対策をする上で万全の対策をしたい養護教諭と協力的ではない一般教諭と管理職の意識の差がでている。折衷案を考えるのに苦労している。
感染予防と熱中症予防、両方の対策が必要なこと
感染予防に関する教職員の温度差、管理職の意識
感染予防に対する意識の低下が見られること(生徒・教職員ともに)。毎日のアルコール消毒をはじめとする感染防止対策への負担感が大きいこと。全教職員が正しい知識をもって指導にあたることができていない状況に不安がある。
感染予防に対する職員との温度差
感染予防に必要な消耗品予算がいまだにつかない。必要な消耗品が入手しにくい。
感染予防の予算がついたのはありがたいが、注文や、受け入れの手続きなど、負担が増えた。 何をどこまでやればいいのか、とても不安であるが、一人では、処理対応できないし(消毒など)、職員の意識は個人差が大きすぎて、対応にいつも悩む。
感染予防を徹底できないところ。大人数すぎて蜜を避けきれない。どのようにするのが正解なのか模索中。
感染予防対策をふまえた正しい清掃方法。生徒の通常清掃を指示できない状況。主に教員で行っている。清掃資材も手指用アルコールに優先的にお金を回していただいているため、ランニングコストを考えると簡単に買えずもろもろ足りない。色々な感染症予防対策を考えるものの、実際現場では３密です。そもそもの一クラスの人数が多すぎる。体が大きいので大分密。
管理職1人が方向性を示すのみで、検討等が行われないこと。
管理職からの情報・相談などがほとんどない。
管理職からの要望が強く、文科省のマニュアルに書かれていない対策もやらざるを得ない状況にあること。
管理職との意見の対立
管理職との意見の不一致
管理職の意識が低く、対策のための会議は開かれず、意見を求められた事はない。どうしても必要と思われた健康観察や保健指導、消毒作業や感染者発生時の対応マニュアルは保健室主導で公務分掌から提案した。また、実際には子供の感染症対策には限界があり、学校医も仕方ないと諦めている。教職員も手洗いや消毒は普段よりはやっているが、という程度である。蜜は避けられないし、本校で出たら、クラスターを起こす事は必至である。
管理職の危機管理意識 が薄いため、対応も判断 も遅い
管理職の危機管理能力が低いというか、一般的なので、養護教諭が、いつも高い危機管理能力を持っていないと、大変なことになります。
管理職の根拠のない方針についていけない。養護教諭として力を発揮したくても求められていない。
管理職や教職員との連携が難しい。保健室に情報が下りて来ず、トップダウンや一部の職員でさまざまなことが決まってしまうため、実際対応にあたる者が苦労している。
管理職をはじめ教職員の意識の差が大きく、足並みが揃わないことに困惑している。
器具の消毒を学校で行っているため、不安があります。
机や器具等の消毒アルコールが不足。値段も高くなかなか購入しずらい。
既存の教室の大きさと児童数による密集回避の難しさ。日々の校内環境消毒の時間確保。
期間が、長いと、教師も生徒も、感染防止の対応、消毒などが負担になって、徹底しなくなる。
休み時間などは生徒間の距離は近くなってしまう　微熱だが体調は良好な生徒への対応　ネグレクト傾向の家庭でコロナが心配だから登校させない保護者への対応
休み時間におけるソーシャルディスタンスの確保
休み時間や部活の時間など気をつけていても、密集密接を避けられない場面がある
休み時間等で密になる環境が出来やすい。
休校から２ヶ月たち、児童、保護者、教師の感染予防への意識が少し薄れた。密を避けたいが限界がある。
休校明け直後は、手洗い、消毒、ソーシャルディスタンス等、かなり気を付けていたが、時間がたつにつれだんだんと意識が低下してきている。みんなが負担にならないよう持続可能な消毒作業等工夫が必要。
給食時の手袋が足りない
給食時の配膳方法、発熱者対応の別室確保が困難
教育委員会からさまざまな物資が一方的に届くが、現場の要望は無視されているため、本当に必要なものは足りない状態である。

教育委員会からの通知が遅い。速やかにマニュアル化されている自治体があるのに対して、本自治体では大半が学校判断とされる。
教育委員会が指導力なし
教育委員会の対応が遅く後手後手になっている。
教員、生徒に温度差がある。全日と定時で足並みを揃えるのに苦労する。費用面でも。
教員、保護者の認識の温度差
教員ごとに感染症に対する認識の違いが大きい
教員それぞれコロナに対しての価値観が異なり、養護教諭からの提案にも様々な意見が出て、精神的に疲れている。
教員の意識がバラバラ。一律に徹底できない。
教員の意識が低くなってきている
教員の意識に温度差があり、協力を求めづらい
教員の意識に凄く差が、あること。
教員の感染症に対する危機感の温度差。管理職の一声で、一生懸命考えたことも、決まってたことも覆る。だんだんと緩くなっている現状。先生方の負担も多いので、頼みにくい。
教員はかなりしっかり対応している(しようとしている)。しかし、家庭の意識、子供の意識が低く、対策が不十分になっている
教員は消毒、掃除、配膳、消毒や石鹸の補充など、今まで必要なかった作業の量が増え、全てが中途半端になっている。
教員もだが生徒一人ひとりの感染対策への意識をいかに高め継続していくことができるかが課題である
教員も生徒もコロナに対する意識が人によってだいぶ差がある(上も下も)
教員や生徒の感染対策意識が時間の経過と共に薄れている。マスクをしない教員がいる。また、マスクに対しては、今後熱中症の時期に入るため心配。 何人も濃厚接触者疑いがでており、PCRの結果待ち等の情報収集が大変。
教員間に温度差があり、足並みが揃えられない事が課題となっています
教員間の意識差。熱中症とマスクの兼ね合い
教師が行う消毒作業の負担
教師による消毒や掃除など多忙過ぎること
教師側が行事や日常で距離を保つ様に配慮しているが、休み時間に生徒たちが密着する傾向。他のクラスの生徒と廊下で混じってしまう。部活でマスクを外した中で蜜になってしまう。つい大きな声を出してしまう。など
教室が狭く、三密を防ぐことが難しい。
教室が足りず、感染症対策用の別室と、別室登校者用の教室が無い。別室登校者は保健室で受け入れており感染しているかもしれない児童との隔離ができない。
教室で密集や密接を完全に避けさせることが難しく、その意識を子どもたちに持たせるのが難しい
教室などの消毒に使用するアルコールが不足していた。その際は次亜塩素酸ナトリウム液を使用して消毒していたが、時間がかかり、職員の負担が大きかった。第２保健室（熱発した生徒が待機する）の場所と職員の確保が難しい。
教室に全員の生徒を入れているので密な状態である
教室の広さから、文科省指導の1メートルあけることは不可能。 休み時間に三密は、避けられない
教室の広さの問題で、十分な間隔を取ることができない。体育時はマスクを外しているが、間隔をとっていてもプレー中に生徒同士が近づいてしまうことがある。
教室の消毒など慣れてくるとどうしても甘くなってくる、定期的に教職員の意識付けが必要。 資材の確保、生徒の意識、差別に繋がる発言など通常業務に加え様々な問題がある。
教室の中でソーシャルディスタンスを保つのは難しい、教科により、学習内容等に支障がでている。
教室内で、密集密接を避けるのはかなり難しい。
教室内の消毒に時間がかかり、勤務時間内に終わらない。いつまでやるのかという声あり。
教職員、生徒ともに、感染防止の意識が日ごとに薄れていく
教職員で危機感の違いがあり対応に差が出てしまうところがある
教職員の意識の違いが大きく、目指す拡大防止策を行えないことが多い。

教職員の意識の差
教職員の意識の差異、　修学旅行等の実施
教職員の意識統一が難しく、指導や実践の徹底ができにくい。
教職員の感染予防意識に温度差がありすぎて、タオルの共用をしている体育教師がいます。マスクもはずしているときがあり、職場がいやになります。
教職員の気を付け方が人によって違うこと。
教職員の新型コロナウイルス感染症についての受け止め方に差がある
教職員の毎日の消毒や掃除の負担
教職員の予防意識の差
教職員への感染症についての理解や危機感をもたせること。児童生徒にも、同様で、指導がいること。 マスクの使用の仕方について。熱中症予防の点も課題。
教職員や管理職の新型コロナウイルスに対する危機感がずれていて、本当に大変だった。
教職員一人ひとりの意識の違い
教職員間の意識の差、感染症予防に関する予算の不足、生徒のコロナに対する意識の低さ
教職員間の温度差、児童への指導の徹底ができていない
教諭の負担が増えたこと。
業者、通級などの来校者の背景、感染者の家族などが分かりにくい
極小規模校であり、職員の意識の問題や（個人によって違う）、対策を継続していく為に、養護教諭が先頭に立たなければいけない現実に疲れてきました。
勤務時間外の対応が必須であること。（玄関での体温表チェック、消毒作業等）マスク着用・三密回避と熱中症対策のどこにバランスをとるか。
勤務時間後からの消毒で、教員の心身の負担が心配。宿泊行事がどうしても密になってしまうこと。
近くに感染者がいないので、どこまで対策をして良いか分からないこと
近隣や周りの学校感染症対策を参考にしていきたいが、情報交換の機会が少ない。
近隣校との感染症対策の温度差、消毒、健康観察カード、毎日の負担。繰り返しのガイドラインや方針、どうとでもとれる文書で対策は結果的にこちらが考える
健康チェックの方法、チェックの仕方、昼食時間の注意など、きちんと対策しようとすると、多忙を極める。手洗い場の不足。熱中症対策とマスク、どちらも大切ではあるが、どちらかを選択しなければならず、今、選択するのは熱中症対策なので、感染対策はとれない。
健康観察だけでは、感染拡大を防ぎきれない。
健康観察の統一が難しく、担任の技量によってになってしまっている。しっかり行ってくれているクラスとそうでないクラスの差が激しい。
健康診断の進め方（歯科健診をダブルミラーで行いたいが不足していたり、授業時間との兼ね合いで健診に時間を割けない）
健康診断等では、一人一人消毒したり厳重に対策をしていますが、実際、小学生の、日常生活で、密を避ける等、現実的には困難なことが多い。
検査や検診には、手間と時間がかかるが、養護教諭が一人配置なので、他の教員の手を借りないとできない。
元々、学校は密になりやすく、感染防止には限度がある。また、文科省及び県からの通達で、何度も振り回された
現在、校内の消毒やトイレ掃除は教師でしているが、毎日のことで負担になっている。
現在、発熱者に対して別室対応をしているが個々によって平熱も違うため基準が難しいのと体調不良者への判断が難しい。
現在のところ感染防止用の消耗品はなんとか足りているが、今後どのくらい続くかによって、不足が生じる危険性がある。
現時点ではないが、感染者が発生した際の消毒等に困難を感じている。
現状に慣れてしまい教員、生徒に危機感が乏しい。
現段階ではアルコールなど不足していないが、少なくなってきたときの購入のことを心配している。価格が高騰しているので、予算との兼ね合いがあるので滞りなく購入できるのかが不安である。
個々（生徒、保護者、教職員）の意識の差
呼吸器症状のある児童を別室で待機させるための空き教室が少ない。

工業科があり、実習器具の消毒に労力と物資とお金がかかる。消毒液の管理も保健室がしており、かなり負担である。保健部職員はいても結局は養護教諭の意見を求められる。感染予防の消毒をしている先生方のストレスや不満が直接養護教諭に向かうことも多い。養護教諭同士の情報交換の場がない。
広島への修学旅行が確実に感染を防ぎながら実施できるか。児童同士が密着しないように学習や遊びをすることが困難である。
校舎、教室の消毒や、トイレ清掃を職員で行うことになり、放課後の先生方の負担が増えている。
校舎があまりにも狭く、3密どころでは無くなっている
校舎が古くて狭いが、児童数が多いので三密は避けられない。状況が、刻々と変わるため教員集団もギクシャクしている。
校長の独断
校長会での決定事項が優先される。
校内の施設消毒はかなりの負担です。専門家ではないため、徹底することも難しい。生徒同士の距離間も、通常授業が始まっていると、蜜が避けられない。
校内の消毒、子ども達同士の距離をとること、教職員の意識の温度差
校内の消毒、毎日児童下校後、全職員で 拭きとりをするが、勤務時間外になる。30分以上かかる。 3密を避けるのは、難しい。授業中は、できているが、休み時間は、できていない。
校内の消毒や休み時間の生徒の見守りなどに職員の空き時間が奪われ皆疲弊している。長期にわたるのであれば人員の確保をし、負担軽減を図らなければいけないと思う。
校内の消毒や部活道具の消毒など、本当に有効なのか？疑問を持ちながら、毎日の消毒作業は、とても負担。いつまでやらないといけないのか、先の見えないのもきつい。 マスクの着用も猛暑の中、暑い。熱中症にも気をつけないといけないので気を使う。
校内の消毒を毎日、放課後や部活動の終了後に教職員がしなければならず、長期になってくると負担が大きい。出張などで他の職員がカバーするのも負担がある。
校内の消毒作業が、勤務時間外の仕事となっている。アルコールが高額でなかなか手に入らない。
校内の消毒作業をどの程度行えばいいのか、不安に思う時がある。
校内の消毒等、全職員のモチベーションを保つのが難しい。マスク着用中の熱中症対策と感染予防の両立がかだいとなってくるとおもつ。先の見通しが立ちにくいことも対策を立て難いよういんのひとつとなっている。
校内の消毒方法について、現在次亜塩素酸ナトリウム希釈液を使用しているが、取り扱いが煩わしいため職員の負担が大きいので、他のものに変えたいが、物品が手に入りにくかったり、消毒効果として今より低くる可能性があったりするので、なかなか変えられないもどかしさがある。 県が主導して、学校の課題を吸い上げて、回答してくれるようなシステムが欲しい。県立学校だが、学校単位で対策を考えているので、負担が大きい。（新しい感染症なので、全世界的にそうだが、何が正解で何がグレーなのかわかりにくい中、手探り状態）
校内施設の消毒について、毎日のことであり、教職員の負担が大変大きい。一時期ボランティアを導入したが、地域で感染者が増えたため、来校を御遠慮いただくことになってしまった。また、小学生は発達上、密を避けることが難しい。
校内体制が後手後手に回っている。もっと、管理職によるスピーディーな対策委員会の招集、対応が必要。また、職員からはすべて養護教諭に意見が集中し対応に苦慮している。5月ごろ、マニュアルもない中、養護教諭としてもどうしてよいかわからないのに、「それでいいのか」「意味あるのか」などと、様々なご意見をいただき、回答に困った。
行事「運動会、合唱等の持ち方」、アルコール等の不足
行事の実施の延期や縮小、中止など、検討するものが多く状況に応じて変更しなきればいけない。
行事の中止、保健室経営
行事等一つ一つ検討していかねばならないので、時間と労力を要する。
高校なので、昼食時の対応。また、教職員内の意識の差
今のところ感染者、濃厚接触者出ていないものの、いつ出てもおかしくない状況で、今後が心配です。マスクや消毒などできることは行っていますが、基本的に子どもたち同士の接触は今までとあまり変わっていないのが現状です。子どもたちに接触を避けたり、距離を取ったりは、難しいと感じます。入ってしまったら、クラスターの発生は避けられないと思います。今、何を一番優先させたらいいか、必要なときにどう対策を取ればいいか、など、伺いたいです。
今のところ資材は足りているが、中々購入できず、これから在庫がなくなってきたときが不安である。
今の対策をいつまで続ければよいか、先が見えない。

今は消毒液等足りているが、今後続くと物資が手に入るか不安になる。
今回、学校ごとに養護教諭が主となり消毒の仕方のマニュアル作成をし、指示する形となり実施しているが、そもそも専門家ではないので、他の職員と同じ程度の知識の養護教諭がそんな責任を負おうようなことをするのは不安で仕方がない。市からマニュアルが出て、それを校内に広げていくのが立場ではないだろうか。
今回の新型コロナウイルスについては、養護教諭の知識や経験では対応できるレベルのものではない。管理職が主導し対応することである。管理職が覚悟を決めず、方針を出さない学校は混乱している。
今後いつか保健物資が足りなくなるときが来ると思う
今後どこまで何をやればいいか不安です
今後の運動会や修学旅行でどのように感染防止対策を行うのか、対応が難しい。
今後の感染状況によっては、再び分散通学を実施する必要が出てくるかもしれない。通学に公共機関を利用しているので、保護者の車での送迎をお願いしないといけなくなる。その場合には、車の誘導等の教職員の負担が大きくなる。
今後の流行状況が読めないことが不安である
三密のなかでもとくに密接の回避が困難。集会等では間隔を空けたり三密の指導等しているが、休み時間の触れ合いはとくに制限していない。
三密をさけながら教育活動を行うのは難しい。
三密を避けて学校で生活させるのは不可能に近い。また、マスク着用も徹底はできない。保健室で対応することで感染するリスクは計り知れない。が、健康相談的な対応も増えているため、むげにもできない。県で感染症予防対策について、詳細な基準等があるわけでなく、文科省からの資料だけを頼りに各校任せの感染症対策になっているため、感染対策グッズの購入や、出席停止の扱いなども迷うことばかりである。また、感染者が発生した際についても、校内体制や職員、生徒、保護者への周知や対応など、どうしていけばよいのか不安が多い。
子どもたちが密になってしまう。
子どもたちの意識の個人差が大きく、継続したマスク着用、手洗い等難しい児童がいる。
子どもたちや職員の疲れへの対応。心のケア。 感染予防についての意識の維持向上。
子どもたち同士の距離感など感染予防を徹底しきれない部分が出てしまうことに加え、どこまで徹底したら良いのか分からない。
子どもと指導者の密接を避けることが難しい。
子どもにソーシャルディスタンスの啓発をしても、日を追うごとに緊張が薄れて密着して遊び触れ合うようになってしまう。環境面の消毒など毎日時間と労力を取られているが、子供の行動の現状からはそれも徒労のように感じられ心身ともに疲弊していく。予防のために遊びや行事など楽しい活動を制限せざるを得ないが、子供はストレスが溜まってきて、廊下を走ったり問題行動が増えたりしている。
子どもの密は防ぐのが難しい。
子どもは休み時間など距離を保てない、マスク着用と熱中症予防の両立が難しい、マスク直用の徹底が難しい、朝の検温を徹底するのが難しい。などなど
子どもへの「密」防止対策の困難さ。設備面の老朽化。市予算の配当不十分さ。
子どもや保護者の意識には、かなりの差がある。
市からの指示が学校裁量になっているため、校内での調整にいちいち時間と手間がかかること(管理職、担任、校医などそれぞれの意見を取り入れるため)
市のガイドラインが無い状態なので未だに手探りなこと
市の対応(予算措置、ガイドライン作成など)が遅い。
市教委からの対策はあるものの出席停止の基準、検温、消毒、掃除の仕方等具体的には学校判断となり難しい。
市町村として具体的な対策が明確ではない(どのような内容の授業までやっていいのか等)、人手不足による教職員の疲弊(とくに放課後の消毒やトイレ掃除、市はスクールサポートスタッフを導入するというが、清掃員がほしい)
指針が具体的でなく、学校ごとに考えらなければいけないこと
支援学級の児童を含めて42人が教室に入っている状況でソーシャルディスタンスを保つのは不可能である。
支援学校のため、感染予防対策を児童生徒に徹底させることが難しい。そのため、教職員に負担が大きくなっている。今後の状況が予測できないため、不安が膨らむ。
施設の共有部分の消毒について職員で毎日実施していくことが難しい（時間設定や準備、片付けなど）
肢体不自由児が多く、教員と児童生徒の密着が避けられないこと。重度重複障害や病弱児が多く、もし児童生徒に感染させてしまったら…と考えると教員の精神的負担が大きい。

資材の調達や準備に苦労している。どこまで、感染予防すればいいのかがよく分からない。
資材の不足（消毒液、手袋など）
児童・教職員の中で予防意識の差が大きく指導が通りにくい
児童が下校したあとに消毒を実施しているので、勤務時間内に消毒できない事が多い。
児童が下校した後、校舎内の消毒を教員で分担して実施している。どの程度徹底した消毒を実施しなければならないか悩みながら実施している。
児童のストレスや不安や悩みに寄り添い保健室経営しているが、消毒などの負担も多い。
児童のマスクの徹底が難しい
児童の安全、命を守るために何を優先していくべきかを職員で共通理解を図るべき。学校で行うことができる対策に限界を感じています。
児童の下校後の消毒が時間がかかり、他の業務に支障がでる。 手指消毒のアルコールや手洗い石鹸の入手が困難な時があった。 予算の関係で購入できる業者が限定されており、その業者では上記のものが購入するために非常に時間がかかり、養護教諭は精神的に辛かったです。
児童の健康観察や校舎内消毒等について、教職員間や保護者間で理解・協力に差があることが課題であり、悩むところである。
児童の蜜が避けられないこと。話し合い活動がしにくいこと。
児童はマスクをはずす。距離を保てない。
児童も職員もマスクや消毒などについて気がゆるんでいるが、それついてしつこく言いつづけることはできない。
児童数が多いため、廊下や運動場など密になりやすい。
児童生徒の理解の困難さ(知的障害)や、家庭の協力の難しさ難しさ
児童同士密になる。学習する上で、共有物の消毒が大変です。
持病がある子どもが多く、登校させること自体が不安である。(聴覚支援のため、マスクを外さなくてはいけないことも多々ある。)また、子どものことばかりで労働者である職員への対策が不十分なことが一番の気がかり。
持病がある児童生徒が多く、感染が非常に不安です。
次亜塩素酸ナトリウム液での消毒のやり方を説明しても、ちゃんとやってもらえない
次亜塩素酸水の取り扱い、アルコールの不足
自転車通学の生徒がマスクをはずして登校し校内に入るときに入る際に着け忘れがち。体育の後も声かけをしないとうっかり教室に入ってしまう。
執務の増加。 職員や保護者、地域の意識の差。
実業高校なので所定の時間数実習をしないと資格取得出来ないものもあり、対応に困っている。
実際に児童の家族の健康状態がどう影響しても防ぎようがないこと。
実施している予防対策を評価する人がいない
手洗いせっけんの補充用が品切れが続いているため、夏休み明けが心配です。
手洗い場が不足し、手洗いに時間がかかる、夏場のマスクの着用徹底がなかなかできない。通常登校になり、教員の意識が緩み、対策が徹底しにくい。
手洗い場の確保、清潔のための予防対策が予算面、人的面にも不足している。
手洗い場の不足で密になりやすい環境であること。
手洗い石けん等の不足傾向。
手洗い等の声かけや指導を担任の先生方へお願いしているがなかなか継続せず子どもたちに任せてしまっており、十分に対策できているとはいえないこと
手探り状態での、感染防止なので、不安がある。
授業や行事に制限があり苦慮している。消毒、清掃、検温など通常の業務以外の仕事が教職員に過重している。生徒も教職員も新しい生活様式へのシフトチェンジに対して、少しずつ精神的負担が出てきているのを感じる。対策を進める側からすると、教委からのベースとなる対応策は提示してくれるが、やはり学校差が出てくるため、これでいいのかという不安やストレスがある。必要物品の入手に苦慮する。
授業後の消毒作業に時間を取られる

授業中など、いくら感染防止対策をしても、休み時間まで徹底できない。消毒についても何を使用するのか、今までと変更があったり、職員の時間もとられたり、負担が大きい。
授業中は可能であるが、休み時間に密回避は子どもには難しいと思う。
授業中や給食指導中は、ソーシャルディスタンスが、守れていることが多いが、休み時間や下校中は保てていない。体調が悪くても登校する児童がいる。今は家庭科室を第二保健室として使用しているが、2学期以降は使えなくなる。
就学時健康診断も感染拡大状況をみて実施しなければならず、負担も大きい。
就学時検診の開催方法
修学旅行などの学校行事についての細かな指針がほしい。（すぐに使える健康観察のデータ）マニュアルだけでなく、換気や手洗いなどの指導を現場ですぐに使える教材やポスターがほしい。（高校生でも納得できるようなデータの根拠やイラスト）偏頭痛などの生徒への対応や、早退者への対応。
修学旅行や地域との運動会などでの対策。
宿泊・修学旅行、運動会等の行事、日々の学校生活等における、実施の可否や感染予防策等の取り決めを各学校の判断に委ねられていて非常に困っている。また、学校は密を避けられない状況にあったり、手洗いの指導やマスクのつけ方・外し方などの徹底がなされていなかったりと課題はたくさんある。 情報が日々更新され、その真偽が不明な点も多く、何をすることが正解なのか分からない。
宿泊研修、修学旅行の引率で配慮事項について課題が多い
出席停止について曖昧であり、発熱全てが停止となるが、解熱後すぐに登校するため停止の意味があるのか疑問。
暑い中、マスクを着けての学校生活。熱中症の危険性がある場合 人と距離をとって外しても良いとのことですが、まず本校は狭い校舎ですし、生徒同士距離が近いのでマスクを外せません。徹底することが難しいです。色々な感染症対策を提案しても、教員からは文句ばかりでこちらが疲れてきています。私たちも好きで消毒やってるわけじゃないのになー…って。
小学校なので、ソーシャルディスタンスを守るよう指導しても、どうしても休み時間や登下校時は人と人との距離が近くなってしまう。
小学校のため、指導しても子どもは、引き寄せられるようにして近い距離に子ども同士いる。
小規模校のため教職員数が少なく（７名）ひとりひとりの役割が多い。
少し休養する、という保健室の機能が停止している。
昇降口や階段などの密をどう避けるか。 消毒のしかたなど。
消毒、清掃など子どもの感染防止対策をするために、教師の感染防止は不十分であり、負担増
消毒・マスク・フェースシールド等、ここまで必要ないのではと思うことを、強制的にさせられており、精神的にしんどい。消毒の労力に疲れ、時間も取られ、身体的にもしんどい。マスク装着での授業は、かなり息苦しく疲れる。これがいつまで続くのか、なんとも言えないつらさがある。生徒も先生も楽しみにしていた総体等がなくなったのは、むなしさでいっぱい。生徒はよく持ちこたえているなと思う。
消毒が十分できていないように感じる。体調不良を訴えた児童への対応が難しい。
消毒などの人出が足りないこと
消毒など校長を含め、教職員が総出で行っており、授業中も様々な制限があり、学校運営が大変である。
消毒など毎日職員が行うことが負担である
消毒に振り回されている。密にならなければマスクをはずしてもよいというが、学校は（教室は）密であり、この暑さでマスクが耐えられない子も多い。
消毒のものが足りない、消毒する時間がかなりかかる。
消毒の意識が薄れる
消毒の範囲や程度に悩むことがある。
消毒の負担、宿泊行事の不安、
消毒やトイレ掃除など、先生たちの負担が大きい
消毒や児童への指導などやっても不安が残るし、子どもはいくら指導しても密接になっていることがある。
消毒や制限している活動の解除のタイミング
消毒や清掃作業に時間がかかること。保健室登校の児童と体調不良者の対応において感染防止をどのようにしたらよいか保健室対応に苦慮している
消毒や対策等に時間がかかり、他の仕事が終わらない。感染対策のやり方がが良いのか悪いのか分からず、学校判断になっているので困る。

消毒をする必要があるのは十分理解できるが、現在の人員配置では教員の負担だけが増し、マンパワーが不足している。
消毒をどの程度、頻度で行うのか曖昧 供給されるアルコール濃度が低い 感染に対する知識のない教員が多い 長期化に伴う生徒の感染防止意識の低下
消毒を行うことが負担になっており、特に担任は放課後の消毒に時間がかかっている。また、夏場はマスクを外して体育や休み時間を過ごしており、飛沫感染への対策が徹底できないと感じている。
消毒液確保のための予算が不足しているし、売ってないので調達できない。学校内の消毒作業や、トイレ掃除を教職員がやることで、残業時間が多くなる。
消毒液等の消耗品費は配算されたがほしいものがなかなか手に入らない。 大規模校なのでソーシャルディスタンスを保つことが非常に困難。
消毒業務の負担が大きい、高校生へ接触しないよう指導を通すことが困難、健康観察を徹底するにあたっての負担が大きい、どこまで・いつまでがわからない不満が出ている、細かなルールが曖昧なままで有事の際にどこまで責任追求されるかわからない不安、新たな通知や感染拡大具合による予定変更・計画頓挫からくる業務増
消毒作業
消毒作業が正直きつい。消毒作業の道具を準備するだけで、私は精一杯。他の職員にもお願いはしていて、みなしっかり作業していただいているが、これがず一っと続くとなると、教員だけの力ではどうにもならない。外部の協力がないと続かない。
消毒作業が大変。準備する養護教諭の負担も大きい。負担を軽くするには、物品の充足が不可欠。
消毒作業など厚生省などから出ている情報が二転三転しその度に提案のし直し、職員への共通理解など根回しが大変
消毒作業に時間と労力がかかる
消毒作業をどこまで徹底させるのか。登校させるのに不安を抱える保護者や生徒への対応。検温など健康観察を、今後の感染状況動向を見極めていくことなど
消毒時間の確保。感染疑い者が出た場合、早退までの休養場の確保。出席停止扱いの不明確さや、その扱いに対する事務処理の煩雑化。
消毒等の負担。消毒などは行っているが生徒の意識がひくく、ソーシャルディスタンスなどが徹底できていない。
消毒等の物資の調達、生徒の心身的な影響、職員の負担。
消毒薬が十分にない事、町から非接触型体温計等が提供される予定が未だきていない事、校内の消毒作業が職員の負担になっている事、風邪症状があっても登校してしまう児童の対応、欠席と出席停止扱いが学校ごとに違い、またその判断、児童にメディカルディスタンスを持たせ続けること等
消毒用アルコール・ハンドソープを購入する費用が足りない。それらを補充したりするのが労働過重になっている。保健室が通常通り使えなく廊下で対応している。健康診断もあり外科的・内科的なことをディスタンスを保ち、一人で対応するには困難でる。
消毒用のアルコールなど必要な資材が安定的に供給されないのが不安である。 小学生のため、指導はしているが、休憩時間など、密接の場面が避けられず、不安である。
常にアルコールが不足する。来室者に制限をかけるので(発熱患者等体調が悪い児童がいるときは、怪我や他の対応ができないので)保健室の運営がしにくい。
情報が多すぎて、内容を整理できないまま、仕事に追われた。
職員および生徒の理解を得ることが課題。 現在の状況においてもなお、消毒が大変、そこまでやる必要があるのか、等の声も聴かれ、また健康観察記録表の回収率の悪さ（クラス差あり、おそらく担任の姿勢の違いによると思われる）などから察するに、生徒も職員もコロナ感染症に対する意識が低い者が一定数いると思われる。
職員がなかなか理解していない。　養護教諭の仕事ではないのに負担になることで文句やいやな顔をされたり、養護教諭のせいだと言われる。
職員それぞれの認識の違いがあり、対応に微妙な差が出てしまう。
職員による意識の差。 児童や保護者の感染予防の意識の差。 何が正解かわからない。 直前に委員会からの指示文書が来る。 見通しが立たない。
職員に感染防止についても温度差があり、どこで統一したら良いのか難しい。 いろいろなことがあやふやでどこまでやるべきか難しい。
職員に教室での感染防止をお願いしているが、徹底が難しい。（職員と子どもの距離が近くなる、給食前の消毒作業が不十分に感じる　など）
職員の意識に温度差がある
職員の意識のずれ 管理職の危機管理

職員の意識の違い（少しずつ対策に対する意識や行動が甘くなっている）
職員の意識の違い。この感染症を軽く見ている人、反対に非常に過敏にとらえている人がいる為、職員の温度差があり、まとまらない。
職員の意識の継続。行事対策。
職員の意識の差
職員の意識の差
職員の意識の差があり、周知徹底できないことがある。
職員の理解を得るための労力
職員は概ね協力的だが、危機感に差がある。物品購入に多くの時間を費やした。終わりの見えない消毒作業が負担。高校では、普段、健康観察簿がないので、健康観察のハードルが高い。
職員へ納得がいく説明が必要だった。情報が錯綜してその選択が難しかった。当初は消毒やマスクの不備があった。
職員も含め生徒も個々の意識の差が大きく、集団に協力をお願いする難しさがありまし す。
職員間での危機意識の差が大きい
職員間で対策を考えても、何が正解かわからず、話し合いに結論がでない。不安の中での対応になっている。
職員間の温度差
職員間の温度差　例えば部活動再開　修学旅行の開催について
職員間の温度差に悩む。全員の理解が得られなくく、取り組みに個人差が出ている。
職員間の危機意識の違い
職員室の対策や来校者への対策が薄いこと。
職員数が少なく、消毒など限度がある
心のケア。
心因的なように見える児童への対応
新しい生活様式として、消毒は必須になるであろうが、教員たちの負担感は多く、時間の流れの中で、負担感故の惰性が出てくることが考えられる。
新しい生活様式のを生徒に浸透させるための工夫が課題。
新しい生活様式の継続的な実施が難しい。教室でマスクをつけない生徒が出てくることに対して、不安に感じる生徒やストレス反応が出ている生徒が多い。来室も例年に比べて多い状態である。 このままでは自分も倒れてしまうのではないかという懸念がある。
新たな生活様式に則った学習活動を、教職員で検討し、実施している。しかし、消毒や、環境面の整備をどれだけ徹底しても、学校においては三蜜を避けられなかったり、徹底するほど十分な学習活動を行ったりすることができない。 市教育委員会から、感染防止対策の指針は出るものの、各校における対策は、各校の実態に合わせて、各校の考え方次第になっている。養護教諭のネットワークで情報収集し、判断するようにしているが、各校の対策にばらつきがあり、本校の感染防止対策が十分なのか、不安を抱えながら行っている。
新型コロナウイルスに関する意識が教職員間で違うので、感染症対策を取る際に難しさを感じる。過剰な反応をする教職員と、全く正反対の考えを持つ教職員がいるので、統一するための話し合いや情報提供をする際に難しさを感じる。 それを埋めるための研修だったり、情報提供なのだが、専門家を呼んで指導する必要性を感じた。 また、消毒薬が不足している、予算不足など、物資が足りないなかでの対策であり、教職員が、個人の資金を提供し、物資を調達する事が多々あり、困った。
新型コロナウイルス感染症に限らず、これまでの感染症対策にも共通するが、管理職、教職員の意識に差がある。突き詰めると学校保健、学校安全に対する意識の差とも言える。
新型コロナウイルス感染防止対策と熱中症対策を同時に行うため、対応が難しい部分がある。
新型コロナ対策と、教育活動の両立が難しい。新型コロナがあり、保健教育ははかどるが、その他の活動に支障が出ており、効果が図れない。
人材不足。消毒作業など足りない。
人手不足
人数の少ない学校なので、それほど大きな課題はありません
水道が少ないので、手洗いの時など密になりやすい。

水道の数がもともと多くないため、石けんによる手洗いや歯みがきに間隔を空けて並ぶ列が長くなる、など場所が広く必要とされている。
正しい対策か不安である。夏休み明けが怖い。感染者があまり出ていない県であるため、最近はみんなの意識が緩んできたように思う。
正解がわからず、先の見えない毎日です。宿泊学習も行う予定なので対策に困っています。
生徒、職員の意識の低下
生徒が夏場マスクの着用をしなかったり、教室の換気をしないこと。マスクは着用するよう指導しても、暑いためすぐに外してしまうこと。
生徒が設置している消毒液に飲料を混ぜたりと、感染対策が思うようにできない
生徒が登校すれば、密は避けられない。また、毎日の消毒作業が勤務時間外になるのは当たり前である。空間と時間、人員が足りない。
生徒に感染防止の意識を高める（行動を変える）ことが課題です
生徒の３密の回避。校内の消毒。
生徒の意識の継続、対策の程度への不安、対策での職員の不足、行事の制限など
生徒の意識の低さ、マスクをしない、手を消毒しない、密集して遊ぶ、大声をだす。など注意しても改善しない。
生徒の意識改革、行動変容が課題
生徒の学業保証(今後学級閉鎖とかになれば、授業日数の確保が厳しい)、コロナ肥満
生徒の健康観察をGoogleformにしたが、チェックしない担任が多い。また「体調不良の場合は登校しないように」と指導しているが、生徒が体調不良を訴えても登校させる保護者が多い。職員の健康観察は毎月末回収しているが、保健室が管理しており、管理職はチェックしていない。
生徒の三密を避ける行動の徹底が難しい
生徒の三密を防ぐこと　生徒の自宅での健康チェックの徹底や消毒作業など
生徒の保健室来室がかなり多い学校。養護教諭も一人配置であり、コロナ対応・対策の実施もあるため両立しながら保健室経営をすることが極めて厳しい。
生徒の密接を防ぐ声かけが難しい
生徒数が多いため、手洗い場やトイレなど、密になってしまう。
生徒対応
先が見えない為いつまですればよいのか大変不安。職員に意識の差がある。
先が見えない不安や対策への困り感。どこまでのレベルで対応したらよいのかわからない。定時制のため、生徒の仕事の関係もあり行動範囲は広く交流する人も多いため、感染リスクが高いことへの不安感。
先生間の感染防止に対する意識の違い
先生方の考え方の違いがあること
先生方の認識が、養護教諭だからコロナについてなんでも知っていて聞けば答えが返ってきて、なんでもやってくれるとなっていること。
先生方の負担が大きく働き方改革への弊害がある
線引きがよくわからない。何をどれくらいどこまでいつまですればいいのか分らないので精神的な負担が大きい。
全校での徹底が難しい。
全国一律に予算をいただけるのは大変ありがたいことだが、物品の調達に苦慮している。
他の学校さんと、取り組みに差が出てしまいました（消毒や給食時）。先生方の負担にはなりますが、お願いをしてきちんと取り組んでいただいていましたが、他の学校はやっていないのに、となってしまいました。
他の教職員との共通理解が困難である、消毒作業
他の先生の協力を得るのが難しい。
他職員から聞かれても、私だって分からない。保護者対応にしても管理職に聞いて行って欲しい。
体育授業では、マスクなしで密にならないよう、気をつけている事が見受けられますが、部活になると、人と接触する種目の部活は、当たり前のようにマスクなしで接触しているので、気になります。
体育大会や合唱コンクールなど、学校行事全般に課題をかかえている。

体調が悪い時は登校しないように出席停止扱い等の対策をしているが、登校してしまう。咳や喉の痛みはなくなるのに時間がらかかり、ずっと欠席させるわけにもいかない。気分不良や腹痛吐き気などは年中感じている子もおり、なかなか判断が難しい。密になるなと言ってもべたべたくっついている。学外ではマスクを外して遊んだり飲食している。感染拡大地域へ行っている生徒もいるらしい。状況に慣れてきて、アルコール使用量も減ってきた。危機感が薄れてきている。
体調不良への対応や早退の判断が難しい。
体調不良者の受け入れを保健室で行っているが、十分な隔離をすることが極めて困難である。別室に入れることができても、横になって休ませる長いす等、ベッドに変わるものがない。床にシートを敷き寝かせるなどの方法もあるが、物品の移動やそのためだけの部屋として使用することも難しい。工夫をすれば良いことではあるが、各校の様子を具体的に知りたい。
体調不良者の対応で、早退させるか迷うことあり。本人が休んで様子をみたいと言い、回復して教室復帰するとき。感染しているかわからないため、不安しかありません。
体調不良者の判断の難しさがある。
対策（消毒や検温）をしても登下校や休憩時間などに密集してしまう現状があります。
対策してはいるが、感染者や濃厚接触者が出た場合、どのようにしたら良いのか具体的な対策マニュアルがないので不安。
対策への気持ちの温度差を教員の中で感じること
対策もマンネリ化し、大人も子どもも慣れが出てきてしまっているので、どう気を引き締め直すべきか考えているところです。
大きな声を出して行っていた活動をどのように他の活動に変換したらよいか教員も生徒も苦悩している
大規模のため、物資が全く足りない。教師の負担が増えた。またそれに対し教師から否定的な意見でている。校舎内が全く空き教室やスペースがないため、常に蜜状態である。また、教師の数も多く、共通理解を図ることも難しい場合がある。
大規模校であり管理対象となる児童・職員数が多い。個別に配慮するべきような対象も多い。人数が多い割に十分な施設設備が整っていない。密が避けられない、手洗いに必要な水栓（・・・学校生活上においては休憩時間といった決まった時間に一度にたくさんの水栓が必要となってくる。）アルコールなどの医療物資の不足、価格の高騰、感染予防グッズとされて出回っている商品が学校現場でどこまで有効かわからないこと。示される対応の基準が曖昧で判断に苦慮する。
大規模校であることから、常に密な状態となっている。 今は季節的に窓も全開していても大丈夫だし、手洗いもきちんと出来る子供が多い。しかし冬季が不安。またアルコール等も不足する事も考えられる。
大規模校であるため、感染の疑いのある生徒を隔離するための部屋（空き教室）の確保が難しい。
大規模校であるため、人と人との距離を保つことが困難。消毒関係の物資も多くを確保しなければならない。職員の意識の差が大きい。
大規模校なので、いろいろな場面で密が回避できない。 職員の意識に温度差がある。 教育委員会の対応が遅いなど
大規模校のため、水道場や昇降口、休み時間の校庭等の密を避けるのが困難。空き教室もないため、教室内も密状態
大規模校のため、普段の学校生活で密にならざるを得ない。（授業、給食、移動教室、掃除など）それにより、学校行事の選定も困難。
大規模校のため、密接、密集が避けられない。
大規模校のため、蜜は避けられないこと。消毒方法や消毒グッズが適切に行き渡らないこと。
沢山の文書が送られてきて読み込むが大変。もっと簡潔でわかりやすい文書にして欲しい。
担任との温度差 放課後の掃除消毒等の負担 アルコールなどの消毒に使う色々な物が不足している
担任の意識の違いにより、対策の取組の程度に差がある。(例:ある学級は教室の机を離して配置したり密接していたら注意の声かけをしているが、ある学級は例年通りの距離で机を配置したり密接していても何も言わない)
担任等との意識の違い、連携のしにくさ
朝の健康チェック、放課後消毒や掃除により、時間がとられてしまうが、仕事は減らないので、職員の疲労が溜まっている。
朝の健康チェックを個人の紙ベースで行っており、担任の先生の負担が大きい。県のアンケートシステムの利用を検討したが、個人のデータ抽出に手間がかかり導入できない。個人の体調データを学校が把握できるアプリがあるといい。 アルコールが未だ入手できない。
朝の検温・健康観察をしてきているかのチェック、消毒作業を勤務時間外に行なっていること。

朝の丁寧な健康観察や放課後の消毒に時間がかかり、学級担任の大きな負担になっている
長期化し緊張感が薄れてくる事で、感染対策が生徒、教師共にいい加減になってきていることが課題である。
転勤してきたばかりで、消毒物品の不足に悩まされ、自費で準備したものも多い
登校後発熱以外の風邪症状への対応
都や区からの配布物が、学校が要望している物ばかりではなく、保管等に困難な時期があった。
働き方改革や業務改善と言われる中、朝の検温チェック、放課後の消毒など時間外勤務が増えており先生方の負担が増えており、先生方も疲労している。
特に温度や湿度が高くなってきてから、どうしてもマスクをつけない生徒が増えてきており、マスクを外す場合は距離をとる、会話を控えるよう指導しているが、十分に対策ができていない。職員で共通理解し指導を徹底するよう呼びかけているが職員の認識や行動化にも個人差があり難しい。保護者にも協力を求めているが、家庭内での指導も難しい様子もある。大人の足並みが揃っていないため、生徒たちの認識や行動を改めるのも困難である。
特に休み時間など、授業時間以外でのソーシャルディスタンスが難しい。
特別支援のため、身体の接触や向かい合った指導を完全になくすことが難しい。感覚過敏でマスクが出来ない子がいる。自閉でつば吐きをする子がいる。歯みがきの仕上げ磨きをすることが難しくむし歯が心配。現状体調不良の児童生徒が休める場所は保健室しかないが、保健室で医療的ケアを行っているため同じ部屋で一緒に過ごさせるには抵抗がある。医ケアはお湯等使うため教室では実施できない。
特別支援学校であり、児童生徒との密な接触が避けられない。医療的ケアや口腔ケア、排せつ介助等、感染のリスクの高い接触も多い。児童生徒がマスクをつけることは難しく、感染防止の対応が難しい。感染したら重症化するリスクの高い児童生徒が多く在籍する特別支援学校の教員は、非常に神経を使いながら感染症対策に追われ、またプライベートでも自分が感染者となって学校に持ち込まないように気をつけて生活していると思います。
特別支援学校なので、マスクを嫌がったりソーシャルディスタンスをとることが理解できなかったりする子ども達がいる。
突然、休校といわれ、それでも子供たちを預かり、再開したら、数々の対策をして、こんなに感染が拡大しているのに現場任せの体制に憤りを感じています。感染症は防げないのは、新型インフルエンザの時に経験積みです。保護者の価値観も多様な中、日々難しさを感じています。せめて、健康診断、コンクール、調査、研究紀要中止など配慮していただきたいです。また今後の対策について現場の混乱がないようにお願いしたいです。
日常の学校生活を回しつつコロナの対策をしなければならない点
日々どんどん状況が変わり、先が見えない、何が正しいのか分からない中で生徒も職員も心身への負担は大きい。withコロナ…個々の温度差もある。学校はリスクを背負い感染予防対策、マスク、消毒、健康チェック、授業の確保等…児童生徒、職員の健康安全を守りながらの毎日は大変である。
日々の消毒の時間の確保が難しい。
日々の消毒や体調の把握、別室対応など、校内でどう対策し共通理解、共通実践できるかが難しいです。
日々更新される情報への対応
熱や咳などもの症状ががあっても、職員も生徒も学校に来てしまう。
熱中症対策
熱中症対策とコロナ対策の課題。どこまで？ 先生方の負担増。マスクをしたまま授業をする疲労感
熱中症対策との両立。密を避けたり、マスク着用のこと、ソーシャルディスタンスなどで人と人とのコミュニケーション不足に拍車がかかっていると感じている。
熱中症対策と同時にエアコン換気と消毒、マスクについて
熱中症対策と並行して行うことの難しさ
熱中症対策のため、登下校や部活動時のマスク着用の必要がなくなり、人との距離をとることに生徒も教員も疎くなっている。
熱中症対策も考えないといけないこと。 小学校にとって、感染対策の徹底が難しい。
熱中症予防との兼ね合いが難しいです。どれだけ指導しても、教員の目の届かないところでは、密になってしまう。
熱中症予防と感染症予防を並行して実施する事
濃厚接触しないと教育が成り立たない現場であるため、三密防止ができないため対策はできない。
発熱や風邪症状の生徒を保健室とは別室で対応することが望ましいとされているが、養護教諭１人制のところは現実的には無理がある。長期的に感染症防止対策が必要なため、教職員や養護教諭の職務の負担が増大している。これまでは時期が異なっていたものを２学期まとめて健康診断、学校行事（修学旅行、持久走大会）、感染症対策の全てを実施しなければならない苦しさがある。

発熱患児に対する対応（別室対応）やけが人・保健室登校児の保健室対応について。
飛沫予防と熱中症予防の両立
必要な物品が手に入らないこと。またコロナ対応と日常の業務を同時に行うことが負担である。
不特定多数の児童がさわる場所への消毒を徹底することが難しい。
不明な点が多い中で校内の物品等の消毒はどこまですればよいのか疑問の声が多数ある。また、現在教育委員会から配布される次亜塩素酸水（商品名：リバティシュシュ）を手指消毒と物品消毒に使用しているが、どこまで効果があるのか。 歯みがきをする場所が少なく、３密を避けるのが困難な状況がある。
部活動が盛んなため、活動中はマスクを外している。その状態で密になっている姿をよく見かける。部室での様子もよく分からず、対策が十分なのかが不安である。
部活動での三密は避けられない。
部活動中におけるコロナ感染予防対策の徹底が困難である。
風邪症状など、少しの体調不良者でも別室で対応することになり、判断や対応が難しくなっている。
風邪症状などで帰宅させる際の線引きなど
物資が不足しているため、感染防止対策をいつまで続けられるか不安。(予算も不足することが予想される)
物品の調達が思うようにできない。 消毒作業等、時間と人を生み出すのが極めて大変。結局は、時間外勤務になっている。 校内だけでなく、教育委員会のリーダーシップも必要
物品も人手も予算も追いついていない状況で、一日１回以上の施設消毒がガイドラインに挙げられたり、３密も避けられない中で部活が始まっていく状況での感染予防対策。
物品用消毒アルコールの入手が難しい。(手指用はある)
分散登校が難しい
分散登校を始める前、分散登校後など国や都の対応がぶれたり遅れたりして区からの方針がなかなかおりてこなかった。教職員や保護者に周知徹底する段階で何も文書が届いていないときは、ガイドラインを始め自分で情報収集し、校内マニュアルや保護者通知文を作成し、管理職に確認をとって発行してきた。（私は主幹養護である。） また、現状では周りの情報も含めて子供の感染報告がないこともあり、校内の換気、消毒等において教員の意識がそれほど高くはなく、取組にばらつきが出ている。あまり不安をあおりたくはないが、あいまいな対応を続けていることも不安である。無症状感染者も一定数いると予想される中、どの程度、意識を高めて取組を続けるべきか。
別室対応するための教室がない。教員も足りない。
保健資材の確保や教職員の危機管理意識の向上
保健室が、狭く、分離も出来ない
保健室での相談ができない
保健室での対応分けや休養者の隔離が難しい
保健室に来室した児童への対応が難しい。かぜ症状の１つでも当てはまれば、家庭に帰すのか、保健室で休養していいのかなど判断基準があるといいと思う。また、怪我で来室する児童と体調不良で来室する児童の対応する場所を確保するのが現状難しい。
保健室のゾーニングが難しい。保健室が狭いので、体調不良者の増加に備えて、第2保健室も整備されたが、現状運用できていない。
保健室登校の子どもに対応しつつ、新型コロナ感染疑いの対応をするのは困難。
保健室登校生徒の対応
保護者の意識および指導力の差が大きい
放課後に消毒作業をやっているが、時間の確保が難しい。
放課後の消毒作業に時間がかかり、教員の負担になっている。また、来室した風邪のような症状のある子どもへの対応に悩んでいる。普段なら学校で様子をみる程度の症状でも、もしコロナだったら…と考えると対応に迷いがある。
放課後の消毒作業に時間と労力をとられ、養護だけではなく学級担任も疲弊している。
放課後や部活終了後の毎日の消毒作業（他職員も超過勤務になる）
防止対策について、個人で考え方がかなり異なる。職員間でも、保護者や生徒とも考えがあり、一律の対応や指導が困難な場合がある
本校は山村留学制度があり、県内外の様々な地域から児童が来ていますが、地元地域、保護者の方には心配に思われる方もおり、人権問題にも配慮が必要です。

本来あるべき学習形態がとれないこと(集会活動、グループ活動、話し合い活動、校外学習など)
毎朝3人の職員が生徒玄関に立って、マスクをつけているかチェックし、手指用アルコール消毒を生徒の手にかけてから、生徒を校舎に入れるようにしている。その他に保健室、図書室、体育館、卓球場などにアルコールを置いているので、生徒は消毒しているようだが。職員は職員玄関に準備したアルコールで自分で消毒するが、職員の方が忘れている場合がある。
毎朝の検温が、完璧に実施、保護者の確認ができていない。この状態では、感染者が発生してもすぐに対応が困難なんだと思う。
毎日、消毒作業に時間を要するため、他の職務に支障が出ている。
毎日、全職員で放課後、生徒が共有するトイレのドアノブや教室のドア、水道の蛇口などの消毒をしているが、とても大変です。一つ仕事が増えた感じです。その消毒液の準備、タオルの洗濯を養護教諭が毎日しているので忙しくなりました。いつまで、消毒をしないといけないのか先が見えないので困り感があります。
毎日の校内の消毒が大きな負担です。
毎日の校内の消毒と換気窓を開ける作業は、勤務時間内に確保しにくい。生徒が登校すれば生徒対応に追われ、放課後は部活動指導(朝練もある部はある)があるので。コロナ前より、毎朝１時間早く勤務開始しないと、指定時間(教員の勤務時間の見直しがなされ、超過勤務に厳しくなった)に帰れない。好きで超過勤務している職員は１人もいない。職員への体力的にも、精神的にも負担が大きい。生徒対応も、休校開けの精神不安定、濃厚接触者疑いの不安など、より細やかに対応する気疲れがある。
毎日の校内の消毒作業は、時間と労力がかかって、かなりの負担になっている。
毎日の校内消毒、子どもへの感染予防指導、管理の徹底に難しさを感じる。
毎日の施設の消毒はかなり手間取り担任にとってもかなりの負担となっている。2学期からトイレ掃除については外部委託となり、負担は少しは軽減されると期待している。児童同士のソーシャルディスタンスはなかなか取りにくい実態にある。暑い中でのマスク使用も熱中症が心配される。まと、常時換気しながらのエアコン使用はかなり機械に負担のよう。
毎日の施設消毒、
毎日の消毒が職員の大きな負担になっている。
毎日の消毒など感染防止対策にかかわる時間が取られ、通常の執務を効率よく行うことが難しい。
毎日の消毒にかかる時間、感染症対策の資金不足、消毒や体温計などが手に入らない
毎日の消毒に時間を要している
毎日の消毒に対する教師の意識のバラつき。家庭の意識のバラツキ(朝の検温忘れ等)
毎日の消毒の実施が課題である。どこまでを求めるのか
毎日の消毒は全職員で取り組んでおりありがたく感じている。しかし、いつまで放課後の３０分を消毒に使うのか提示できないため不満もあるのではないかと思う。給食は今まで食堂を使っていた児童生徒の半分以上が教室で食べている。配膳や準備なども各担任の負担になっている。学校行事の大きな見直しで例年にはない計画を考えることが各担当者を悩ませている。
毎日の消毒作業、登校後の生徒の対応確認
毎日の消毒作業がとても負担です。授業時数確保のため、7時間授業などをしながら、それに加え放課後の消毒作業で、人手も少なく困っています。また、暑い中マスクをつけての生活で、熱中症の心配もあります。
毎日の消毒作業が教職員の大きな負担になっている。
毎日の消毒作業と、毎朝7時(勤務時間外)の検温チェック
毎日の消毒作業の負担が大きい。職員によっては感染症対策へので意識取組に差がある。
毎日の消毒作業は、職員で分担して行っているが、職員の理解と協力の上で作業が成り立っている。いつまで続くのかと閉塞感を感じる。
毎日の消毒作業や密を防ぎながらの活動
毎日の消毒作業を全員で取り組んでいますが、30分は取られます。
毎日の放課後消毒が大変（意味はあるのかと疑問を持ちながら行っている） 特別支援校なのでマスク着用が特性上できない子もいる。手洗いも難しい場合や十分でないこともある。可能な限り　というスタンスでしている。
毎日職員で消毒作業をしているが、時間的なものはもちろんだが、精神的に負担が大きいと思う。職員と話していても、いつまでするのか、果たして本当に意味はあるのか、対応に疲れが見える。

毎日生徒には自宅で検温し、事前に配布した検温票に記入し持参することになっているが、登校時にも教員が非接触型検温器を使って検温を行なっている。これをいつまで続ければいいのか悩んでいる。 養護教諭は毎日その担当に入り、その他の教員は週一で入ってもらっているが、いつまでやるのかと教員から負担になっていると申し出が増えてきている。 感染者が一向に減らない状況で学校再開時から続けている登校時の検温をやめると決断出来ないでいる。
慢性的な人員不足。
未知の感染症なので、対応の基準を設けにくいことも分かるが具体的な基準が示されない中で、各校ごとに何をどこまで？とか、これで十分なのか？と手探り状態で不安。 無症状のことも多いためか感染予防に対する意識に温度差があり、それが予防行動に影響している。指導が徹底しにくい面がある。 健康診断は各校でできる範囲でするとされているが、健診会場等での医師、生徒、職員の安全確保や健診器具の洗浄・消毒をする際の恐怖等、不安だらけである。 必要物品がいつまでも不足している
未知の病気とはいえ、感染防止対策が各学校任せすぎる。情報もテレビや新聞からがほとんどで、情報が少ない。
密を避けたいが、教室内に全員入ると距離が近い。休み時間、廊下などで接近してしまう。明らかな症状がなくても不調を訴える子が増えた。
密を避けることはほぼ不可能。
密を避けるとこが難しい場面が多い
密接を回避することが難しい
密対策やマスクの着用などルールが増え注意も多くなる。のびのび子供を育てることと反することばかり。
無症状であったり、家族の職場の方が、感染されたので欠席しますと連絡をされるかどうかは保護者の方次第なので、完全にはウィルスの侵入を防止できるかが課題です。
無駄な消毒を市教委に指示される事。
明確な指標がないので、職員への周知が難しく、担任任せになっているところもあり、消毒作業も追いついていない現状である。
網戸がない教室では虫が入りやすいため換気をしにくい ソーシャルディスタンスを確保できない
薬用液体石けんの調達
予算があっても物品が手に入らない。買える品物が限定されるので欲しいものを買うことができない。
予算が膨大になる
予算の逼迫。消毒液の入荷予定に時間がかかる。学校構造など物理的に対策が難しい。
予算はあっても消毒のための物品が手にはいらない
予算はどんどん下りてくるが、欲しい物資がすぐには手に入らない。業者にもよるが、下手すると発注しても2か月くらい届かないことはざらにある。また、毎日の消毒作業で、教職員の疲弊も大きい。
予定変更が多く、普段が大きい。石鹸や消毒液など予算が足りない。次亜塩素酸水の効果について突然NITEから発表があり、現場は混乱した。また、子どもたちの育ちにはコミュニケーションが必要であり、近づくな、しゃべるなというのは子どもたちの育ちに影響するのではないかと心配している。
予防には手洗いが重要であるが、手洗い場が足りない。
予防教育や感染症対策をしても、集団生活を行う場であるため、密が避けられない。養護教諭は体調不良者とかかわる機会も多いため、自分自身が感染することや、感染を広げてしまうことへの不安がかなりある。
陽性者が出た際の対応が決められていない。差別を恐れて隠蔽しようとしている。
養教主体で対策をしていけばいいのか、管理職主体なのか、わからない
養護と教員との温度差、感染対策の意識が緩くなってきている、感染者が出た時の対策マニュアルを作成したものの実際その時になったら動けるのか心配
養護教諭1人に対策を任せている。確かに学校の中では保健に関して一番知識を持たなければならない存在でなければいけないとは思うが、新人というのもあり、負担が大きい。もう少し国や市教育に指揮をとってもらいたい。
養護教諭が感染防止対策を立案したが、管理職の指示の下対策を講じたかった。
養護教諭と管理職と教職員のそれぞれの間で温度差や危機意識の差があり、対策の検討から実施、徹底まで目指そうとすると非常に難しくストレスフルである。
養護教諭と管理職も含めた他の職員との温度差
養護教諭の職務の追加が多大。スタッフの感染防止対策が困難。教室の人数が多いため密を防ぐ事ができにくい。
養護教諭の負担が多い

寮があるため、体調不良時の対応や県外生の保護者連絡に苦慮している。
冷房時期における換気の徹底が図られにくい。消毒はどの程度やればよいのか分からない。排泄物からの感染のリスクが言われているがトイレは児童が掃除せざるを得ない。
罹患者が少ない地域であること、また学校の規模が小規模の為、先生方の新型コロナウイルス感染症に対する意識が薄く、養護教諭1人で感染症対策にあたっているという状況。